公益社団法人　諏訪教育会　　令和２年１月１６日（木）

教育会だより

No.７

諏訪の子どもや教育を語る会

１１月２３日（土）に、諏訪教育会館において「諏訪の子どもや教育を語る会」を開催いたしました。会員やＯＢ・ＯＧの先生方、ＰＴＡの役員の皆様、地域の皆様など約１２０名の参加がありました。

はじめに、矢島俊樹教育会長から基調提案がなされ、その後、テーマ別の６分科会に別れて、子どもたちや教育について討論が行われました。

それぞれのテーマごと、様々な立場から、日頃感じられていることや実践していることを共有し合うことで、共感したり、新たな視点や方向を見出したりすることができ、有意義な時間となりました。諏訪の子どもや教育のために、それぞれの立場から今後に生かしていきたいと思います。

基調提案

◎『～家庭・学校・地域それぞれの役割と連携～新学習指導要領から考える。』

・主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を通して、資質能力を養う。
・予測が困難な時代。変化の激しい社会に備える。
・よさ・正しさ・美しさを判断できるのは、人間の最も大きな強み。人間のありようが問われている。
・来るべき社会に学校が求められているもの
・育成を目指す資質・能力の明確化
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
・各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

◇生活科委員会の授業から「あきがいっぱい（米沢小１年）」
「みんなでのろう　ぼくらのふね（本郷小２年）」

◇動画「Society 5.0（内閣府 政府広報）」の視聴

Society 5.0。それは、IoT や AI といった先端技術によって、社会課題を解決していくスマート社会のこと。私たちの暮らしは、Society 5.0 でどんなふうに変わっていくのでしょう？ちょっと先の日常を覗いてみましょう。

【感想】

○これからの未来について興味深く聞いた。時代の変化に対応できる教育への取組について情報共有が必要。
○自分の日々の実践を見つめなおす機会となった。広く社会に興味を持ち、学んでいきたいと思った。
○社会の変化に対応できる人材を育てるため、学習指導要領のポイントをＰＴＡとも情報共有できた。
○社会の変化とともに、だからこそ変わらないことや大切なことを大事にしなければとも思った。
○これからの学校、これからの教師に求められる使命を再認識し、思いを新たにする機会となった。
○自分が子どもの頃描いていた未来がもうすぐそこまで来ていることを実感した。そんな社会を生きていく子どもたちに教師としてどんなサポートができるかを考えさせられた。
○目指す資質や能力、主体的・対話的・深い学びなど、会の冒頭で方向が示されたので安心感があった。

分科会と話題提供発表テーマ

第１分科会	「公平なＰＴＡ役員の選出を期すポイント制の導入」	小井川小学校	高橋　功 さん
第２分科会	「総合的な学習の時間における防災学習の取組」	四賀小学校	椎名　望 先生
第３分科会	「情報モラル教育の実践事例」	北山小学校	保坂　実 先生
第４分科会	「学力向上加配を受けて、ゾーン担当他学校の取組」	金沢小学校	倉嶋 彩綾子 先生
第５分科会	「地区のお祭りに生徒が主体的に参加していく環境づくり」	上諏訪中学校	矢島　和明 先生
第６分科会	「学校・家庭における食育のあり方について」	富士見中学校	篠原 久美子 先生

参加者の感想から

【第１分科会】
○少子高齢化の中にあって、現行のＰＴＡ活動や組織の見直しが大変参考になった。
○ＰＴＡ役員の選出について、各校とも工夫や悩みの部分が多いことが共有できて良かった。
○ポイント制は、アイデアとして興味深いものであった。現実として地区での役員の役割も多く、制度の導入にはたくさんのハードルがあると感じた。
○ＰＴＡ活動の魅力づくりを前向きに考える時期が来た。その必要性を発信していきたい。

【第２分科会】
○防災教育について、学校だけでなくＰＴＡも共同して防災訓練ができる仕組みが整えられたらと思う。
○防災等の大人も子どもも自分事にならないテーマにどう取り組むかを考えさせられた。子ども達が自分事として追究する姿が素晴らしかった。
○地域を知り、平穏である日々を慈しみ、有事の際には自ら考えて行動する力が発揮できると思う。
○防災の話題は、地域を支える根幹となり、自分事として考えるテーマとして今後も継続して取り組みたい。
○自分事としての問いから出発し、防災という視点でカリキュラムマネジメントされた実践に刺激を受けた。
○子ども達が問題を解決するために調べ、人と繋がっていく中に学びの本質が見えてくるような気がした。
○防災教育の重要性は理解しつつも体系的に学べていないのが現状。カリキュラムの中で行事も利用しながらマネジメントする事で、より実践的な深い学びに繋がることを勉強した。

【第３分科会】
○情報機器を使わないことは考えられないが、どのように使い、家庭とどのように連携をしていくのかを考えるきっかけをいただいた。
○ネットトラブルを防ぐには学校と家庭との連携が大切。大人も情報を収集し、進歩に遅れないようにしたい。
○情報モラルは子どもに限った問題ではないので、学校のみならず企業や社会で行われている実践事例も知ることができたら良いと思った。
○情報モラルについて考える機会を設けているが、学校と家庭とが協力して安全に活用する力を子どもたちにつけさせていきたいと思った。

【第４分科会】
○授業を見合うことを通して学びについて考え合うとともに、子どもが必要感をもって学びたいと思える場づくりや問い返しなど、教師の手立てが大切だと改めて感じた。
○協働して学校づくりをされている様子が伝わってきた。自校にも生かせるように取り組みたいと思う。
○子どものどのような姿が学んでいる姿なのかを自分自身で見極め、一人一人の子ども達が「できる・わかる」ような授業をしていきたいと思う。
○子どもを見る目の重要性を改めて感じた。一人一人の子どもがどのように追究していこうとしているのか、教材研究の充実と個の見とりの充実に向けて取り組みたい。
○子どもの学びをどう捉えるか。見えないものを見えるようにしていく過程や工夫を私たちがもち、それを共有していくことで、その学校の学力観が形成されていくのではないかと感じた。

【第５分科会】
○コミュニティースクールの機能がコーディネーター中心に地域と連携した素晴らしい実践であった。他の学校や地域に対して大切な示唆を与えてくれた。
○各学校ともに教育活動のビジョンを打ち出し、住民や地域と連携していくことが地域の子どもをより良く育てることに繋がると思う。
○中学生が地域と主体的にかかわり、対話的な活動を通して達成感ややりがいを感じ、更に次の活動の意欲に繋がっていることを知った。大変参考になった。
○地域では高齢化が進んでいる。小中学生の力を活用し、地域の活性化を図る手立てを講じていくことが必要。
○地域と学校、子どもをつなぐコーディネーターが必要。地域を開き、地域に生きる中での活動を考えたい。

【第６分科会】

○学校給食が、こんなに計算されていることに驚いた。家庭の食事は、相手意識よりも手間が優先されていることにハッとさせられた。給食の献立など学校の話題を食事中にしたいと思った。

○栄養面だけでなく、郷土料理を取り入れたり減塩の工夫をしたりして、考えて給食を作っていただいている。

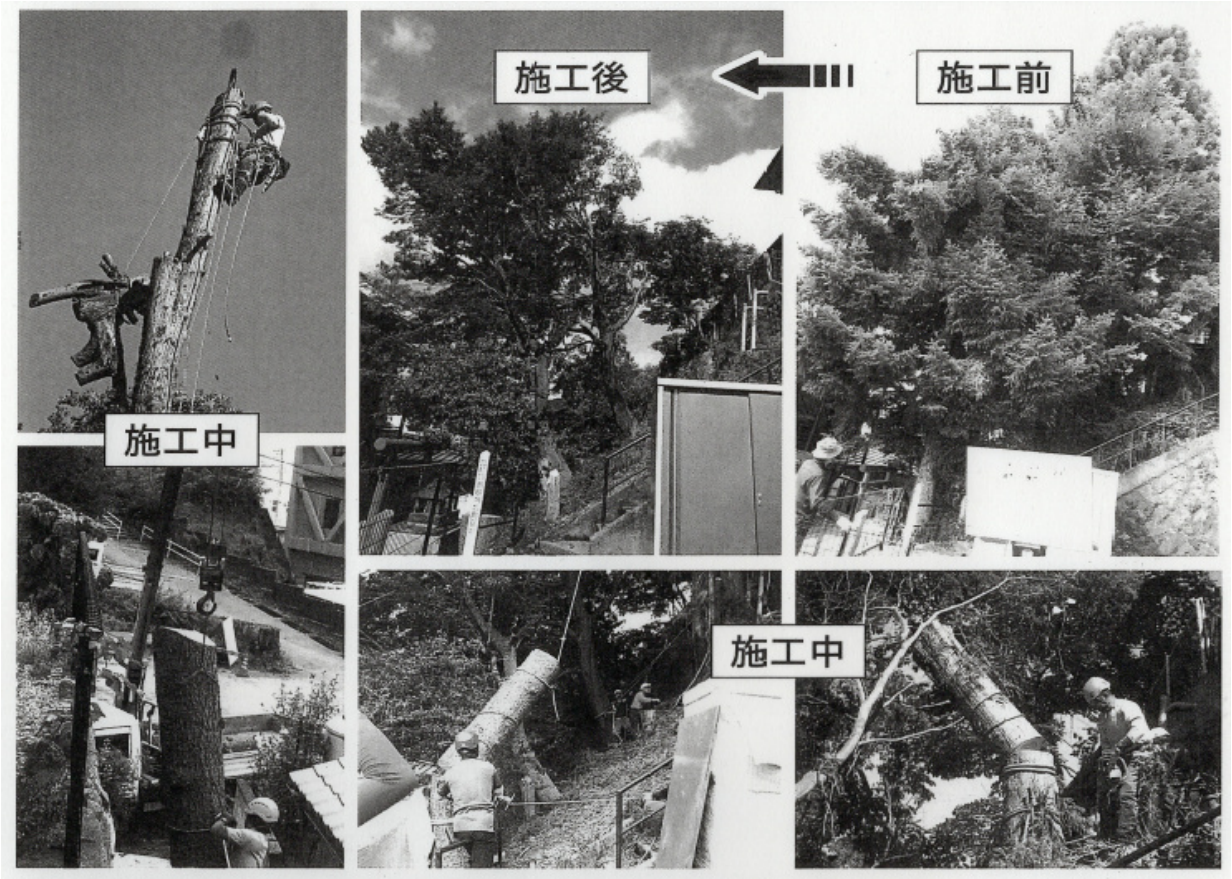
○子どもたちの食べている給食の工夫や苦労を知った。どの子も一人一人の必要量を知って食べることの大切さを感じた。

○生き方指導となるのが食育だと思った。正しい知識を教えるに偏らず、心が動く活動、楽しめることをしていく必要があると思った。地道に何度も語っていくことが役目だと改めて感じた。

○給食作りはなかなか表からは見えない現実を、授業やお便りを通して見える化することで、給食の工夫を家庭へ伝達し、子どもたちの実践へつなげているのが素晴らしい。

教育会館裏の樹木を伐採

教育会館の壁や博物館の屋根近くまで伸びていた会館裏斜面のスギやトウヒ等の樹木伐採を１０月上旬に行いました。施工前はうっそうと木々が茂っていましたが、施工後はすっきりとした景観となり、安全面の確保も図ることができました。今後も会館・博物館の環境づくりを様々な面で進めていきたいと思います。



【作業写真は「諏訪森林組合だより第７７号」より】

教職員バスケットボール大会

２月１日（土）に行われます諏訪郡市教職員バスケットボール大会が近づいてまいりました。年末年始休業が明けて、各校の練習も熱を帯びてきているのではないでしょうか。先生方には、くれぐれも怪我にはご注意いただき、万全な状態で大会当日が迎えられるようお願いします。

会場は、諏訪中学校、諏訪南中学校、長峰中学校、岡谷南部中学校の４校で行われます。会場校の先生方や生徒の皆さんには何かとお世話になります。参加チームの皆様、プレーも応援も、フェアでお互いに気持ちのよい大会になりますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。